

地震がきても大丈夫ですか？

## 地震対策に市の補助をご利用ください

☎ 建築指導課 (☎983-2644)

市では地震発生時における災害を防止し、生命や財産を保護する対策を支援しています。

補助を受けるためには**事前に申請**が必要ですので、ご注意ください。

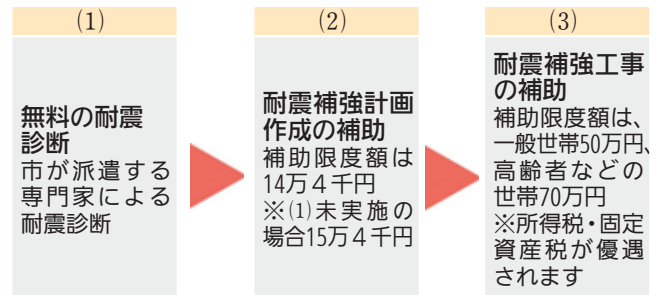
### 木造住宅の耐震補強支援

昭和56年5月31日以前に着工された木造住宅は、現在よりも耐震性が低いため、特に耐震化が必要です。

**補助対象** 昭和56年5月31日以前に着工された木造住宅（一戸建て住宅、長屋、共同住宅）

**補助対象経費** 右図工事までの流れ「(1)無料の耐震診断」、「(2)耐震補強計画作成の補助」、「(3)耐震補強工事の補助」における、(1)診断に要する費用(2)補強計画の作成に要する費用(3)補強工事に要する費用

#### ●耐震補強工事までの流れ



### ブロック塀等耐震改修（撤去および改善）の促進補助

#### ●撤去

撤去費用の一部を補助します。

**補助対象** 道路に面するブロック塀や石塀など

**補助対象経費** 以下を比較して少ない額

- ・撤去などに要する費用
- ・撤去するブロック塀などの延長に、1 mあたり9,000円を掛けた額

**補助率** 対象経費の1/2以内

**補助限度額** 1つの敷地につき18万円

#### ●改善

安全なものに改善する費用の一部を補助します。

**補助対象** 地域防災計画で設定されている緊急輸送路、避難路、避難地に面するブロック塀など

**補助対象経費** 以下を比較して少ない額

- ・改善などに要する費用
- ・改善するブロック塀などの延長に、1 mあたり38,400円を掛けた額

**補助率** 対象経費の1/2以内

**補助限度額** 1つの敷地につき25万円

### 住宅用の耐震シェルター設置助成

住宅の倒壊時に安全な空間を確保する「耐震シェルター」の設置費用の一部を補助します。

**補助対象** ①～④すべてに該当すること

- ①昭和56年5月31日以前に着工された2階建て以下の木造住宅（長屋、共同住宅を除く）であること
- ②「木造住宅の耐震補強支援」の(1)か(2)で住宅の耐震評点が1.0未満と診断され、ステップ3の補助を受けていない住宅であること

③自らが居住する住宅であり、1階部分に新たに耐震シェルターを設置すること

④次のいずれかの住宅であること

- ・65歳以上の人のみが居住する住宅
- ・身体障害者障害程度等級が1級または2級である人が居住する住宅
- ・介護保険法第7条に規定する要介護者または要支援者が居住する住宅
- ・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている人が居住する住宅

**補助対象経費** 耐震シェルターの設置に要する費用（本体の購入費、運搬費、設置費）

**補助率** 対象経費の1/2以内

**補助限度額** 12万5千円



耐震シェルター

## 奈良から来た 三嶋大社の神鹿

今も多くの人々に親しまれている三嶋大社の神鹿は、大正時代に奈良の春日大社からやって来ました。今回は、この神鹿について紹介します。

三嶋大社の神鹿園は大正八年（一九一九）に三島呉服木綿商組合の尽力によりつくられました。今回、かつて大社町にあった「惠澤屋呉服店」の米山良博さんに当時の資料を見せていただきました。

大正八年（一九一九）、現在の文教町に陸軍野戦重砲兵第二・第三連隊が移設され、同じ頃、丹那トンネルの工事も始まり、町の発展に大きな期待が寄せられていました。神鹿園設置の趣意書にも人口が増加し産業化が進む中で、その発展をより顕著なものとするために奉納したい、と記されています。奉納のための活動は大正八年（一九一九）に入ってから本格化したようで、一月二十六日に組合と



▲奉加帳（冒頭部）

三嶋大社との間で、奈良の春日大社の鹿を譲り受ける件について協議されています。二月に入ると組合の代表者が春日大社へ出張して鹿を譲り受けるための交渉が行われ、その後、二月十四日には金二十五円が幣帛料として春日大社へ納められています。

神鹿園の施設は三月上旬には完成したようで、二十二日には組合員の付添いのもと奈良から三島へ無事に鹿が到着しました。

当日は「神鹿飼報告祭」が行われ、官司の祝詞、町長や献納者の拝礼などの後、鹿が放たれました。神楽に対する寄付や煙火代金などの支出記録があり、祭典は盛大に行われたようです。現在でも三嶋大社では三月二十二日に神鹿記念祭が行われています。

経費の大部分は寄付金で賄われました。寄付者の住所は東京日本橋、静岡市、浜松市が多く、呉服

問屋などの取引先と思われる人々から多数の寄付があったことがわかります。また、昭和二年（一九二七）の記録ですが呉服木綿商組合には十五の呉服商が加入していました。

今回見せていただいた資料からは、神鹿園が作られた経緯を通して、三島の呉服商の活発な商取引をもうかがい知ることができるので、当時、三島のまちが大きく発展していこうとしていたことを示す貴重なものといえるでしょう。



▲神鹿園の鹿



ふるさとの人物ゆかりの地⑨

矢田部盛治

矢田部盛治は三嶋大社の神主で、安政の大地震後の大社を再建しました。

また盛治は、農業を盛んにすることを考え、祇園原（加茂川町）に用水路を作り新田開発を行いました。明治元年（一八六八）、私費を投じ、かねてより計画していた祇園原用水（沢地川の水を祇園原に引き込む）建設を実行に移します。

この用水路は全長七五〇メートルで、うち二四五メートルのトンネル部分を含む大工事でしたが、山の中腹に横穴を掘り進めるといった工夫により、わずか四カ月で完成させます。荒地であった祇園原は見事な水田へと変わり、民の暮らしは豊かになりました。人々は盛治に感謝し、昭和二十五年（一九五〇）記念碑が建てられました。



▲祇園原開発の碑（加茂川町）